

全L協総務26第232号
平成27年2月4日

会員代表者 各位

一般社団法人全国LPガス協会
会長 北嶋 一郎

LPガス小売価格の透明性・低廉性確保への一層の努力について
(お願い)

平成26年4月に閣議決定されたエネルギー基本計画に示されたエネルギー政策の実現に向け、総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会 石油・天然ガス小委員会（委員長：橘川武郎(一橋大学教授)）において、エネルギーの安定供給や価格の低廉化、災害対応能力の強化等の検討が行われ、平成26年7月に中間報告書がとりまとめられました。

この中間報告書の中の「LPガスの流通合理化と価格の透明化の促進」の項において、LPガス価格の透明性と低廉化について提言されていることは既報のとおりです。

中間報告書（抜粋）

- ・LPガス販売事業においては、需要家から価格の透明性の確保と低廉化が求められている。
- ・「エネルギー基本計画」においても、「LPガスの料金の透明化のための国の小売価格調査・情報提供や事業者の供給構造の改善を通じてコストを抑制することで、利用形態の多様化を促進する」と記載されており、価格の透明性、低廉性を確保するなど、LPガス販売事業者が消費者から信頼を得られるような企業努力が不可欠である。
- ・一部のLPガス販売事業者が先進的に行っている、小売価格や標準価格等のHPへの公表、各地域においてどのLPガス事業者と契約ができるのかの情報のデータベース化と公表などを全国的に広めることにより、価格の透明化と選択肢の拡大による適正な競争の実現を後押ししていく。

この中間報告書のとりまとめ以降の資源・燃料政策の動向等について審議するため平成26年12月25日に開催された総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会（分科会長：橘川武郎(一橋大学教授)）において、LPガスの

市場動向（LPG 輸入価格・卸売・小売価格の推移）＜別添資料 1＞についての説明があり、これに対し同分科会委員及び分科会長から以下の発言がありました。

（委員発言要旨）

- ・LPガス輸入価格がかなり下がっている一方で、小売価格は高水準となっており消費者にとっては大きな問題。販売指針の再周知といった取組みだけで十分なのか吟味が必要。ガソリンや灯油に比べ、LPガス料金の公開は限定的。ガスシステム改革小委員会では、都市ガスの自由化の際には料金等の情報公開が徹底されると聞いており、LPガスについても、消費者が事業者を選択できるよう、例えば、価格公表の義務付け、事後の監視といった対策の検討の場が必要ではないか。
- ・LPガス価格について、フレート代や為替の影響もあるものの、一般的に卸価格は、サウジCIPに連動するように取引されており、輸入価格と連動して卸価格も下がっている。一方で家庭用の小売価格は地域毎の販売事業者がその地域における様々な状況の中で設定されているものと認識。中間報告書においてもLPガス価格の透明性の必要性が指摘されており、業界としても真摯に受け止め、LPガスが選ばれるよう一層の努力が必要。

（分科会長発言要旨）

- ・LPガス価格について、輸入価格が下落している中で、国内の小売価格が過去最高値を出していることは衝撃的。LPガスに対する期待が大きい中で、価格を下げられるかどうか国民の関心事項でもある。規制の導入は反対であるが、業界としてLPガス料金の見える化を是非進めていただきたい。

こうした状況を踏まえ、経済産業省資源エネルギー庁からも、平成26年2月をピークとして輸入価格・卸売価格が大きく下がる中で、小売価格が同5月に過去最高値をつけて以降、高水準を維持していることに対し、業界としても消費者の理解を得られるような小売価格の透明性・低廉性確保のため一層の努力を払う必要がある旨の指導がありました。

経済産業省等が公表しているモニター価格を基に全L協が独自で作成した表（グラフ）＜別添資料 2＞においても、輸入価格・卸売価格の推移と小売価格が大きくかい離した状況が現れています。消費者から見れば、輸入価格

及び卸売価格が下がっているのであれば、その恩恵が小売価格にも還元されて当然であると考えerことは言うまでもありません。

こうした消費者にLPGガスの販売事業をご理解いただき、信頼を得ていくためにも、小売価格の透明性・低廉性が求められております。このことは、都市ガスの自由化が迫る中で、LPGガスが「選ばれるエネルギー」となるために必須であると考えられます。

つきましては、団体会員代表者（都道府県協会長）にあつては傘下会員販売事業者に、直接会員代表者にあつては各々の支店等に対し、小売価格の透明性・低廉性確保への一層の努力と、消費者への小売価格に関する説明責任を果たすようご通知くださいますようお願いいたします。

以 上

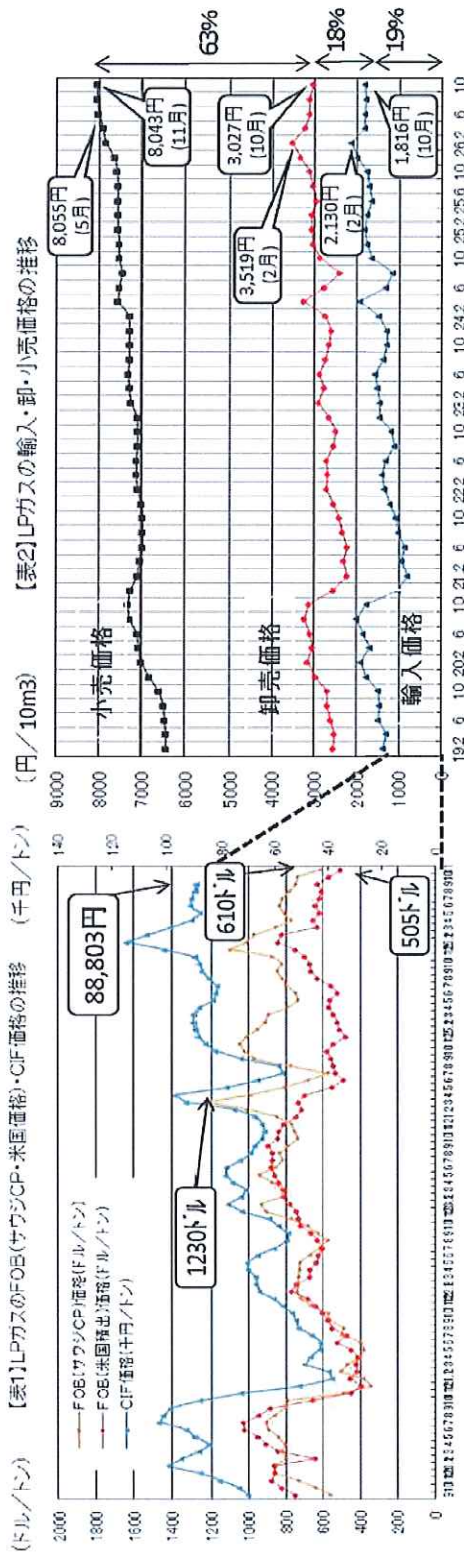
送信手段：Eメール
担当：事務局長 若山

別添資料1

1-3. 石油・天然ガスの市場動向（LPG輸入・卸売・小売価格の推移）

○輸入価格は、サウジCPが過去2番目の高値を付けた（平成25年12月）ことやフレート価格の急騰（平成25年11月約39ドル→平成26年6月約130ドル）及び円安の進行を受け本年2月に史上最高値となっている。その後、サウジCPの下落・輸入の多角化等（米国シェール由来LPGの調達増加等）により輸入価格も下落傾向にあり、直近もサウジCP価格が大幅に下落しているため、今後この傾向が継続すると見込まれる。

○他方、小売価格については、5月に最高値をつけて以降、高水準を維持している。



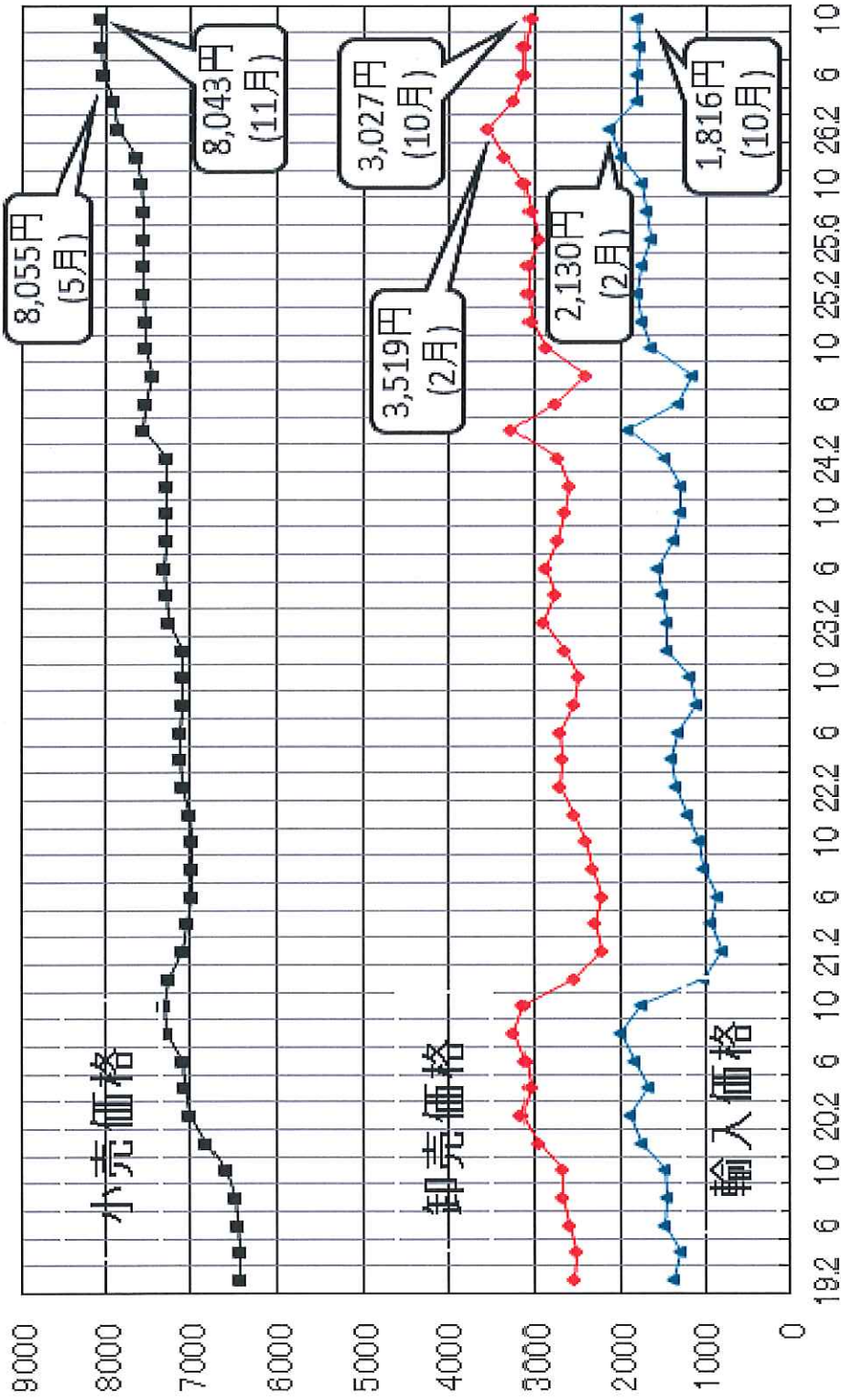
※輸入価格:CF価格(千円/トン)を10m3換算したもの

VLGCフレート(船賃)価格

	平成25年1月	平成26年6月	平成26年11月
中東～日本	約39ドル	約130ドル	約90ドル
米国～日本 (喜望峰回り)	約93ドル	約312ドル	約215ドル

(出典)貿易統計、石油情報センター資料、Argusmedia資料

【表2】LPガスの輸入・卸・小売価格の推移
(円/10m3)



別添資料 2

LPガス従量単価(円/kg)の変動額の推移(平成13年～)

